

木崎中だより

9号

平成30年1月9日(火)
さいたま市立木崎中学校
048(886)4302

「七草」の思い出

校長 大谷 慎也

穏やかな日和の中、保護者・地域の皆様におかれましては、健やかに初春をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、平素より本校の教育活動に御支援と御協力を賜り、心から感謝申し上げます。お蔭をもちまして、本日無事に第3学期始業式を迎えることができました。誠にありがとうございます。

さて、5日(金)は「寒の入り」、いよいよ本格的な寒さの到来となりました。そして、一昨日の7日(日)は「七草」でした。この1年間の無病息災を願い、朝食に七草粥を食べた方も多かったかと思えます。私事ではありますが、小学校低学年の冬、「せり はずな ごぎょう はこべら ほとけのぎ すすな すすしろ これぞ ななくさ」と学級担任の先生の後に付いて唱えたのを覚えています。「五・七・五・七・七」の短歌形式のリズムですから、自然と頭の中に残ります。家に帰ってから、内職をしていた母の方を向いて自慢げに唱えます。母に「よく覚えたね。」と褒められたのですが、『せり』は、お正月にお雑煮に入っていたよね。『はずな』って、何?と聞かれました。私は答えられません。「ぺんぺん草だよ。遊んだことがあるでしょ。」と母に言われ、驚きました。続いて「ごぎょう」から「すすしろ」まで聞かれ、それぞれについて教わりました。「すすしろ」が普段から食べている「大根」であることなど、全く知りませんでした。実は、我が家では、いわゆる「七草」の際に「牛蒡 人参 芋茎(ずいき) 蒟蒻 豆腐 油揚げ 納豆」を具材とした汁物を食べていました。両親の出身地である東北では、降雪のある「寒」のときに「七草」は摘みません。その土地にある食材を用いた郷土料理が出されていたのでした。明治六大教育家でもある福沢諭吉は、『学問のすゝめ』の中で、「学問の要は活用在るのみ。活用なき学問は無学に等し。」と述べています。学問の本質は、単に教科書を読むことではなく、身に付けた知識を実際に経験していくことであり、知識の応用と経験が重要であると述べています。小学生の頃に覚えた「七草」が、胃腸や肝臓の働きを助けたり、咳を鎮めたりすることをさらに知り、関東育ちの私が、七草粥を食べたのは、大人になってからでした。

今年度もあと2か月あまりとなりました。3学期は、平成29年度のまとめと次年度の計画づくりの時期です。2学期の終業式の際に行った表彰では、予定時間を超えるほど多くの生徒が体育館のステージに上がりました。日頃学んできた礎を一人ひとりの生徒が咀嚼して努力した結果は、尊敬に値します。とても頼もしく感じております。新たな風が木崎中学校に吹くことを期待しています。

寒さの厳しい折ですが、ひと月足らずで立春を迎えます。この1年間で、生徒、保護者の皆様、地域の皆様、そして、教職員にとりまして、幸せな年となりますことをお祈り申し上げますとともに、「よく考えて行動する生徒 思いやりのある生徒 はつらつとした生徒」の育成を目指して、教職員一同が一致団結し、教育活動を推進してまいりますので、さらなる御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。